

自衛官待遇改善に本腰

防衛省 定員割れ続き危機感

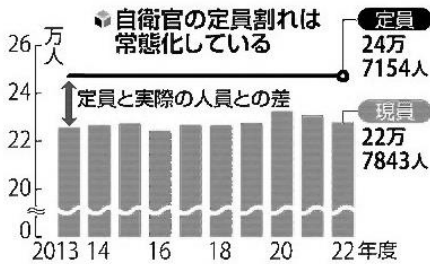
防衛省が、定員割れが続く自衛官の待遇改善に本腰を入れている。入隊希望者への「奨学金」の拡充や入隊後の生活環境の向上を通じて、防衛力強化の担い手を確保したい考えだ。少子化に伴う採用難は今後も続く見通しで、人員減を前提とした対策が必要との声も出ている。

「人材獲得競争はより熾烈になると、防衛省として危機感を持っている。来年度予算の概算要求を見据え、スピード感を持って実行に移したい」

浜田防衛相は8日の記者会見で、自衛隊の人材確保



行進訓練をする自衛官候補生。防衛省提供



策の強化を急ぐ考えを示した。概算要求では、現在は理工系の大学3年生以上に月5万4000円を貸し、卒業後の入隊で返済不要とする「貸費学生」制度について、文系にも対象を広げ、貸与額を増やすことを検討している。高卒者を2〜3年の期限付きで採用する「任期制自衛官」が退官後に大学に進学する場合、予備自衛官などへの登録を条件に生活費を補助する給付金も上積みする方向だ。

自衛隊は、法律上の定員を満たさないことが常態化しており、昨年度の自衛官の人数も、定員(24万7154人)の約92%の22万7843人だった。特に深刻なのが任期制自衛官の不足で、昨年度の候補生の採用は、目標(9245人)の

待遇改善	<ul style="list-style-type: none"> 理工系対象の「貸費学生」制度を文系にも拡大し、貸与額を増額 「任期制自衛官」が退官した後の給付金を上積み
生活・勤務環境の向上	<ul style="list-style-type: none"> 個室に慣れた若者に配慮し、施設の設計や居住ルールを見直し 髪形や髪色のルール緩和 ハラスメント対策の強化
採用方法の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 通年採用や転職サイトの活用
民間人材登用	<ul style="list-style-type: none"> サイバーや宇宙などの分野で高度な技能を持つ民間人を「特定任期付自衛官制度」創設

防衛省が検討する主な人材確保策

43%にとどまった。6月には任期制自衛官の候補生による銃撃事件が発生し、影響を懸念した浜田氏が「どうか高い志を持ち続け、入隊してほしい」と呼びかける一幕もあった。

防衛省の有識者検討会が7月にまとめた人材確保に関する報告書も、若者への

頼が損なわれない範囲」で変更・廃止するよう求めた。

防衛省が概算要求に盛り込むことを検討している奨学金などの拡充は、報告書の提言を踏まえた対応だ。同省は来年度以降、予算要求や採用方法の見直しに提言内容を順次反映させる。

人口問題に詳しい法政大の小黒一正教授(公共経済学)は、自衛官の処遇改善を評価した上で、「日本の人口動態を踏まえれば、現行の自衛隊の人員を維持し続けるのは困難。隊員が減る前提で防衛力整備を検討すべきだ」と指摘。無人機の活用など、総合的な対策が不可欠だと話している。